

「博物館」と「博物館学」研究会だより

Research association of “Museum” & “Museology” 第10号 記念特大号

■Contents■

第10号発行を迎えて	I
研究発表会の記録	II
見学会の記録	III
書評（『丹波マンガ記念館の7300日』）	IV
展示批評（練馬区立石神井公園ふるさと文化館 常設展示）	VII
「博物館」と「博物館学」研究会のあゆみ	XI

第10号発行を迎えて

2004年に発足した当研究会も7年目に入り、本紙も第10号になりました。研究や仕事で博物館にたずさわるか否かに関わらず、博物館に興味・関心をもつ人たちが、自由に博物館を考える集まりとして共に学び、議論し、情報交換を行っています。

研究会発足以来の数年を振り返ってみても、博物館内外をめぐる動向や、博物館論・博物館学の流れは少しずつ、しかし多様な変化をみせているように感じます。それは、博物館という存在が社会あるいは研究・教育の世界から様々な要請や期待、時に批判を受け、それに博物館自身が応え、発言していこうとする動きの表れでもありますし、同時代に生きる我々がそれを見続け、考える意義も大いにあるでしょう。しかしながら、当研究会が置かれる神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科において、研究会発足の契機となった「博物館資料学」専攻は既に姿を消しており、博物館を論じ、考えるための環境は充分とは言えません。またそれは本学に限った問題ではないでしょう。

その中で近年では、同様な問題意識を共有する学外の方々との交流も生まれ、当研究会の活動の輪は徐々に広がりつつあります。異なる立場の人たちが、多様な視点から博物館という場を考える環境を、これからも模索していきたいと考えています。今後とも当研究会をよろしく願い申し上げます。

さて、本紙はこれまで当研究会の活動紹介を主眼に発行してきましたが、本号は記念号として書評、展示批評および研究会のあゆみを掲載しました。これもひとつの試みですが、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

「博物館」と「博物館学」研究会 内山大介